隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

自衛官の人的基盤強化②

令和6年12月20日に発表された「自衛官の処遇・生活環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」。第2回は、自衛官の処遇改善について紹介します。

令和の時代に相応しい処遇の確立

基本方針では「令和の時代に相応しい処遇を確立する必要がある」として「過去に例のない30を超える手当等の新設・金額の引上げ等（手当等の新設8、金額の引上げ等25）を講ずること」とし「任務や勤務環境の特殊性を踏まえた給与面の処遇改善」「士をはじめとした幅広い層の人材確保のための処遇改善」「予備自衛官等の処遇改善」「功績に相応しい叙勲等の在り方」について記載しています。

給与面の処遇改善

「自衛官の俸給表は、昭和25年の警察予備隊発足時に、主として警察官等に適用される公安職俸給表（一）をベースに、一定の超過勤務手当分を繰り入れた構造とし、そこから大きく見直すことなく現在に至っている。自衛官の任務や勤務環境の特殊性、課された制約や負担に見合った給与とするため、現在実施している勤務実態調査の結果や、公平性・公正性を確保するための部外の専門家の意見を踏まえ、あるべき俸給水準や俸給月額の算定の仕組みについて検討し、自衛官の俸給表を令和10年度に改定することを目指す」「また、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中にあって、任務や勤務環境の特殊性を正当に評価し、自衛官として質の高い人材を確保し続けるため、自衛官の中でも特殊な業務に従事する者に対して、手当を充実する」としています。

人材確保のための処遇改善

「自衛官の応募者数・採用者数が大幅に減少する中でも、特に、士の採用は厳しくなっている。このため、当初から自衛官として採用する新たな任期制士を創設し、入隊当初から有事や災害等に際して任務に従事できるような態勢を整えるとともに非任期制自衛官と同等の処遇を確保し、令和8年度より自衛官候補生制度を廃止する。

また、任期・非任期に関わらず、一般曹候補生または自衛官候補生で入隊する者に不慣れな営舎内生活などに対する給付金（指定場所生活調整金（仮称））を新設し、採用後6年間で120万円を給付する」としています。

予備自衛官等の処遇改善

「予備自衛官等は、有事や災害に際しては自衛官となって防衛力を急速に増強する役割を担い、継戦能力の上でも重要な存在であることから、必要な人員数を確保すべく、予備自衛官等として安心して活躍していくことができるよう、環境づくりを進める」としています。

功績に相応しい叙勲等の在り方

「自衛官に対する叙勲等の栄典は、長年にわたり任務に精励した功績をたたえ、自衛官であったことの誇りと名誉、国民からの尊敬を得るうえでも重要であり、これまで生存者叙勲の受章機会のなかった者への範囲の拡大など、その功績に相応しい叙勲等の在り方を検討する」としています。

陸幕人事教育計画課長（天内明弘1等陸佐）にお聞きしました。

ーー処遇の改善について、陸自から見たポイントを教えてください。

◇

基本方針に掲げられた3本柱の第一に「処遇改善」が掲げられたことは、大変意義深いことです。

自衛官の任務や勤務環境の特殊性を踏まえた俸給表の見直し・手当の拡充、厳しい募集状況を踏まえた人材確保のための処遇改善、そして、予備自衛官等の処遇改善は人的基盤強化に係る課題解決の一助となることは間違いありません。

また、金銭面に加え、叙勲等の拡大は、自衛官としての誇りと名誉を更に向上させるものとなります。

特に、中途離職者の増加や士の採用で困難を極め、また、多くの予備自衛官等を管理・運用する陸上自衛隊にとって、これらの処遇改善は、現役の常備・予備自衛官等がやりがいを感じつつ勤務できるとともに、自衛官を職業として選択する募集対象者の意識を後押しする効果が期待されます。

一方、素晴らしい処遇や環境を与えられるわれわれ自衛官は、それに相応しくなければならず、高い使命感の保持、組織の健全性や心理的安全性の確保がより重要となってきます。本基本方針を踏まえ、さらなる人的基盤の強化にまい進します。

①給与面の処遇改善

- 自衛官の任務や勤務環境の特殊性に見合った給与とするため、現在実施している勤務実態調査の結果や、公平性・公正性を確保するための部外の専門家の意見を踏まえ、**自衛官の俸給表を令和10年度に改定**
- 自衛官の中でも特殊な業務に従事する者に対して、**手当を充実**
  - 航空管制官に支給する手当（例：1尉：月額約2万9千円）、航空機整備員に支給する手当（日額1,200円）、主要な野外演習等に従事する隊員に支給する手当（日額1,400円）の新設
  - 航空手当（例：戦闘機パイロットの1尉：月額2万9千円増の約26万5千円）、災害派遣等手当（日額540円増の2,160円）の引上げ、特殊作戦隊員手当等の支給範囲の拡大（陸海空自衛隊のサイバー専門部隊等）

②士の確保等

- 特に採用が厳しい士の確保に向け、
  - **新たな任期制士を創設し、令和8年度より自衛官候補生制度を廃止**
  - 一般曹候補生又は自衛官候補生で入隊する者に**不慣れな営舎内生活等に対する給付金（指定場所生活調整金（仮称））を新設**（採用後6年間で120万円）
  - 新たな任期制士の創設までの措置として、**自衛官任用一時金の引上げ**（現行より約12万円増の約34万円）
  - **進学支援給付金の拡充**（任期満了後、在学期間中に即応予備自に任官した場合：現行より年額約24万5千円増の約53万6千円）や「自衛隊新卒」としての援護広報等の強化
- **自衛隊奨学生制度の更なる拡充**（学資金：現行より年額31万2千円増の96万円に引上げ）など、幅広い層から優秀な人材確保を推進するための施策を推進

③予備自衛官等の処遇改善

- 予備自衛官等に支給する**手当を引き上げる**（予備自手当：月額8千円増の約1万2千円）とともに、**勤続報奨金を拡充**（即応予備自：現行より9万5千円増の21万5千円、予備自：新たに7万円を支給）
- **予備自衛官等本人が事業主等である場合の支援**や、令和8年度中に国家公務員又は地方公務員が予備自衛官等の職を兼ねる場合においても訓練に参加しやすくするための制度を整備

④功績に相応しい叙勲等

- 自衛官に対する叙勲等の栄典は、長年にわたり任務に精励した功績をたたえ、誇りと名誉、国民からの尊敬を得るうえでも重要であり、**令和7年度中にこれまで生存者叙勲の受章機会のなかった者へも範囲を拡大**

北から南まで全国各地で入隊・入校式

東千歳（北海道）

仲間と共に踏み出す春
自衛官候補生が東千歳で入隊式

4月5日に陸上自衛隊第7師団第11普通科連隊（連隊長・太田光1等陸佐）が、翌6日には第7特科連隊（連隊長・西崎心1等陸佐）が、それぞれ東千歳駐屯地において令和7年度自衛官候補生課程の入隊式を挙行しました。当日は、多くの来賓やご家族が出席し、候補生たちの門出を温かく見守りました。

服務の宣誓（第11普通科連隊）

服務の宣誓（第7特科連隊）

第11普通科連隊の入隊式では、太田連隊長が候補生たちに向けて「進んで難局に当たれ」「同期の絆を大切にせよ」という2点を要望しました。そして「皆さんが無事に教育を修了し、立派な自衛官として私たちと共に国防の任に就くことを期待しています」と激励の言葉を送りました。

一方、第7特科連隊の入隊式では、西崎連隊長が、「誇りを持ち、自信をつけろ」「諦めずに食らいつけ」「同期と共にあれ」という3点を候補生に求め「つらい時こそ同期と語り合い、互いに思いやって助け合ってほしい」と励ましの言葉をかけました。来賓を代表して、千歳地方防衛協会会長（千歳市長）および東千歳駐屯地司令が、自衛官候補生へお祝いと激励の言葉を述べました。

式典後には、ご来賓やご家族との会食が催され、候補生たちは久しぶりに家族との大切なひとときを過ごしました。

入隊式を終えた自衛官候補生たちは、いよいよ自衛官となるための第一歩を踏み出しました。

青森（青森県）

自衛官候補生18人が入隊
第5連隊 家族が見守る中の式典

陸上自衛隊第5普通科連隊（連隊長・伊藤裕一1等陸佐）は4月6日、陸上自衛隊青森駐屯地の屋内訓練場において、令和7年度自衛官候補生の入隊式を挙行しました。

多数の来賓ご家族との集合写真

式には、多数の来賓と自衛官候補生のご家族約28人が参列し、厳かな雰囲気の中、18人の候補生が新たな一歩を踏み出しました。

式では、自衛官候補生を代表して工藤健志郎候補生が申告、伊沢未彩候補生が宣誓を行い、引き締まった声が場内に力強く響き渡りました。連隊長は式辞の中で、候補生たちの入隊を歓迎したうえで「向上心」と「信頼」の二つの精神を要望しました。

式典終了後には場所を移して記念会食が行われました。入隊を祝う特別メニューに舌鼓を打ちながら、候補生たちはご家族と1週間ぶりの再会を喜び、和やかなひとときを過ごしました。

会食の終盤には、佐藤陸斗候補生が代表してあいさつをし「今までの生活と全く異なる環境に不安もありましたが、少しずつ慣れてきました。同期と会話ができるようになってきてうれしく思います。この3カ月間、初めて経験することや厳しい訓練があると思いますが、仲間と助け合い、協力して一つ一つ乗り越えていきたいです」と、決意を力強く語りました。

18人の若き候補生たちは、憧れの自衛官としての任官に向け、仲間とともに力強く歩み始めました。

福知山（京都府）

50人の自候生、新たな覚悟を胸に
第7普通科連隊で入隊式を挙行

陸上自衛隊第7普通科連隊（連隊長・佐藤数人1等陸佐）は4月13日、福知山駐屯地において「令和7年度 自衛官候補生課程入隊式」を挙行しました。

力強く「決意の言葉」

式典では、ご家族や来賓が見守る中、自衛官候補生が堂々と入場。18歳から31歳までの50人が、自衛官としての第一歩を力強く踏み出しました。

式辞において佐藤連隊長は「悩みや不安があれば、遠慮なく班長や班付に相談し、これからの3カ月間、失敗を恐れず前向きに取り組んでほしい。仲間と助け合い、互いに力を合わせて壁を乗り越えていくこと」と候補生たちを激励しました。

続いて、候補生代表として福知山出身の窪田候補生が、明るくはつらつと宣誓を行いました。

また、最年長で入隊した髙代候補生が「同期の絆を大切にし、3カ月後には今よりもたくましくなれるよう、日々精進努力してまいります」と、力強い決意の言葉を述べました。

式典後には記念会食や家族との時間が設けられ、久しぶりの再会に候補生たちの表情には自然と笑顔が広がりました。

これから彼らは、同期とともにさまざまな困難を乗り越え、自衛官として必要な知識と技能の習得に励んでいきます。

高田（新潟県）

決意を新たに入隊式を挙行
自衛官候補生としての第一歩を踏み出す

陸上自衛隊第2普通科連隊（連隊長・末本紀彦1等陸佐）は桜が咲き始めた4月6日、高田駐屯地体育館において「令和7年度 自衛官候補生課程 入隊式」を挙行しました。

執行者（連隊長）に対し敬礼

当日は、上越市の八木智学副市長をはじめ、多くの来賓やご家族の参列をいただき、式は厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

緊張感の漂う中、本年度入隊した7人の候補生一人一人の名前が読み上げられました。告達に続いて申告と宣誓が行われ、自衛官候補生としての第一歩を踏み出しました。

式辞では末本連隊長が、「積極的かつ連携して挑戦すること」「安全と健全を常に心がけること」「困難な時も仲間と助け合い、粘り強く乗り越えること」、そして「同期との絆を深めながら成長してほしい」と激励の言葉を贈り、候補生たちの門出を祝いました。

式典終了後は、ご家族とともに記念撮影を行うなど、候補生たちは和やかなひとときを過ごしました。

海田市（広島県）

桜舞う中、48人が決意新た
令和7年度自衛官候補生課程入隊式

陸上自衛隊第46普通科連隊（連隊長・森田裕哉1等陸佐）は4月6日、海田市駐屯地体育館において「令和7年度自衛官候補生課程入隊式」を挙行しました。

女性自衛官6人も含む教育開始

駐屯地内の桜も満開を迎え、暖かい春の陽気に包まれ、式典には女性自衛官6人を含む48人の自衛官候補生が参加しました。

式典には、衆議院議員をはじめ広島県内の首長、家族会や隊友会の関係者など、約40人の来賓と約130人の隊員家族が列席し、厳粛な雰囲気の中で執り行われました。連隊長は、候補生に対して「常に成長し続け、常に笑顔でいること」を大切にするよう激励の言葉を贈り、候補生たちに力強いメッセージを伝えました。

式典は盛大に進行し、候補生たちは新たな決意を胸に、厳しい訓練を乗り越える覚悟を固めました。式後は、参加者全員が一堂に会し、温かな祝福の気持ちを分かち合いました。

札幌（北海道）

看護の志胸に、28人が力強く申告
札幌病院准看護学院で第50期入校式

自衛隊札幌病院准看護学院（学院長・本間健一1等陸佐）は4月2日、初級陸曹特技課程「准看護師」第50期生の入校式を挙行しました。

力強く決意を申告

今年度は、全国から選抜された男女28人（男性16人、女性12人）が新たに入校しました。

式典には、北部方面総監部医務官・佐藤賢吾1等陸佐をはじめとする来賓が臨席され、厳粛かつ希望に満ちた雰囲気の中で実施されました。

学生を代表して福岡出身の加賀谷陸士長が力強く決意を申告し、新たな学びへの誓いを立てました。

病院長の森知久陸将は訓示で「衛生隊員の任務は、かけがえのない仲間の命と身体を守ることにあります」と述べ「仲間を思いやる心を持ち、知識と技術、そして『強さ』と『優しさ』を兼ね備えてほしい」と期待を寄せました。

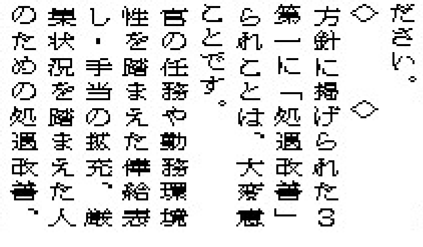
また、哲学者プラトンの言葉「優しくありなさい。あなたの出会う人は皆、困難な戦いに挑んでいるのだから」を紹介し、看護の本質に触れる言葉として贈りました。本間学院長は「皆さんは今、輝かしい未来へと歩み出すスタート地点に立っています」と語り「この2年間、困難なこともあるかもしれませんが、同期との絆を大切に、誰一人欠けることなく乗り越えてほしい」と激励。「学院一丸」「日々前進」の二つを胸に刻み、研鑽に励んでほしいと呼びかけました。

新たに入校した28人は、それぞれの志を胸に、准看護師として成長するべく歩み始めました。

青野原（兵庫県）

決意新たに、自衛官人生の第一歩
初々しい候補生へ、温かい祝福

陸上自衛隊第8高射特科群（群長・小林憲治1等陸佐）は、4月中旬に青野原駐屯地体育館において「令和7年度 自衛官候補生課程教育入隊式」を挙行しました。



第8高射特科群長 式辞

式典には、近隣市長や各防衛協会会長、自衛隊家族会長など多数の来賓が参列。初々しい候補生たちに温かい祝福の言葉が贈られました。ご家族が見守る中、候補生たちは緊張感の中にも凛とした表情で宣誓を行い、その力強い声が会場に響き渡りました。

式辞において、小林群長は「目的を理解し、果敢に挑戦せよ」「同期との絆を大切にせよ」の2点を要望。その上で「今、皆さんは『助けられる立場』から『人を助ける立場』へと変わろうとしています。そのために必要なことは、教育課程の目的を理解し、失敗を恐れず挑戦することです」と激励の言葉を贈りました。

式典終了後には、候補生のご家族に対し、営内居室や勤務環境などの見学が実施され、食堂では交流の時間も設けられました。緊張した面持ちから一転、家族と笑顔で会話を交わす候補生の姿が見られました。

候補生たちはこれから約3カ月間にわたり、自衛官としての基礎を学びながら、同期との絆を深めていきます。この入隊式をもって、彼らの新たな挑戦の第一歩が踏み出されました。

力強く宣誓

都城（宮崎県）

仲間と共に、新たな歩み
第43普連で自衛官候補生18人の入隊式

4月6日、陸上自衛隊第43普通科連隊（連隊長・石岡直樹1等陸佐）は、満開の桜に彩られた都城駐屯地体育館において、令和7年度自衛官候補生課程の入隊式を挙行しました。式には、来賓および候補生のご家族など約100人が参列し、18人の候補生の門出を見守りました。

告達では、新たに入隊した候補生一人一人の氏名が読み上げられ、候補生たちは気迫あふれる声で力強く応答。その後、全員が気持ちを一つにし、申告と宣誓を行いました。

式辞で石岡連隊長は「前向きに一生懸命」「明るく・楽しく・仲間を大切に」と2点を要望。続けて「君たちのすぐ隣には、苦しさも楽しさも共にする仲間がいる。一人では困難に思えることも、仲間と支え合い、明るく前向きに取り組めば乗り越えられる。教育を通じて築く『同期の絆』を何よりも大切にしてほしい」と激励の言葉を贈りました。

家族との記念撮影

また、自衛官候補生を代表して、鍋倉悠輔候補生があいさつに立ち「住み慣れた故郷を離れて生活する中で、これまで支えてくれた方々のありがたみを実感しています。社会人としての一歩を踏み出したことを大きく感じており、同期とともに切磋琢磨し、一致団結して活躍できる自衛官を目指します」と力強く述べ、式を締めくくりました。

入隊当初とは異なり、引き締まった表情を見せた候補生たちは、それぞれの決意を胸に、新たな歩みを始めました。

石川県

第23次派遣隊に激励品を贈呈
北陸の味に温かい気持ちを込めて

3月31日、石川県自衛隊家族会（中正華会長）は陸上自衛隊金沢駐屯地（司令・野田哲徳1等陸佐）を訪れ、第23次派遣海賊対処行動支援隊の隊員に対する激励品を贈呈しました。

野田司令に激励品を手交

この激励品は、野田司令に手渡され、（公社）自衛隊家族会本部からの激励品も含まれていました。本部からの激励品には、ゴーゴーカレーや黒ラーメンなど、北陸の味を主体にしたものが選ばれました。

北陸の味など、家族会からの激励品

石川県家族会からは「御苦労様、頑張って！」と染め抜かれたマフラータオルが贈られました。

これらの激励品は、他の追送品とともにジブチの基地に送られ、隊員に渡される予定です。激励品が届くのは、隊員たちが古里を恋しく思い始める5月中旬頃になるとのことです。

石川県自衛隊家族会は、これまで隊員への支援活動を積極的に行い、地域のつながりを深めてきました。家族会の活動は、現地で任務を遂行する隊員やその家族にとって、心強いサポートとなっています。

編集後記

▽トランプ米大統領の関税政策が世界に不安を与える中、日米同盟は堅固といえます。1面の石破首相、中谷防衛大臣らが参加しての硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式などの記事をご一読ください。▽同じく1面、令和7年度予算が可決・成立しました。わが国の防衛上必要な「スタンド・オフ防衛能力」など7つの分野についてご確認ください。▽また2面には同志国との共同訓練状況について記載。FOIPを実現するための陸自の取り組みについてご覧ください。▽5面から8面には、この春に入隊・入校する新隊員関連の記事を掲載。新隊員の成長を見守る家族の視線も感じられます。